

日本短角種産肉能力検定（直接法）成績

（畜試 肉牛部）

1. 背景とねらい

日本短角種の産肉能力等経済性の向上を図るため、計画交配により優れた能力を備えた種牛を生産確保し、その効率的利用により集団的な育種改良を推進するために「日本短角種集団育種推進事業」が実施されている。

同事業で実施した平成6年度分直接検定成績を改良指導のための参考に供する。

2. 技術の内容

- (1) 6年度検定頭数は第1期20頭、第2期14頭の計34頭であった。検定終了後の供用頭数は11頭で、供用率 32.3 %であった。
- (2) 検定牛の1日当たり平均増体量（DG）は、第1期1.05kg、第2期1.37kgであった。
- (3) 検定成績、選抜指数値、血統、体型等を比較検討し、平成8年度間接検定実施予定牛5頭（15号牛：松笹、21：幸藤、22：良久、24：福花、27：琴春）を選抜した。
- (4) 間接検定実施予定牛と同年度終了牛の選抜差は、DG +0.21kg、皮下脂肪厚（8部位合計）+2.6mm、選抜指数値 +4.01であった。

3. 指導上の留意点

(1) 直接検定方法

期 間

第1期 単房 平成6年10月18日～平成7年3月7日（140日）

第2期 群房 平成6年11月1日～平成7年3月21日（140日）

飼 料

濃厚飼料 産肉能力検定飼料（DM 87.6% DCP 10.5% TDN 73.0%）

メタボリックボディーサイズ当り 6.3%制限給与

粗飼料 乾草飽食（DM 83.2% DCP 6.1% TDN 59.3%）

飼養方法等

単飼 2時間／日牛舎付設運動場で運動

群飼（4～5頭1群） 6時間／日牛房付設パドックで運動

(2) 検定合格牛

同年度の検定牛について、選抜指数値による総合判定を行い、上位1／2の優良なもの

としている。

(3) 選抜指数値の求め方

次の選抜指数式により求める。

$$\text{選抜指数値 } I = 21.749 \times (DG) - 0.254 \times (\text{皮下脂肪厚}) + 10$$

皮下脂肪厚：皮下脂肪厚8部位の合計（超音波肉質診断装置で測定）

(4) 検定牛の選抜の際には、父母牛の産肉成績についても考慮している。

(5) 超音波肉質測定成績の優れた母牛と、産肉能力の優れた父牛の計画交配を推進している。

4. 試験成績の概要

供用牛の概要

検定No.	名号	父	母方 祖父	産地	DG (kg)	皮下 脂肪厚 (mm)	選抜 指数値	合 格	間 検	貸付先
6	梅宝	崎宝	山耕	山形村	1.20	91	13.09	○		陸中農協
15	松笹	松春	光山	岩泉町	1.31	85	16.99	○	○	畜試保留
16	紅萩	崎宝	雲光	山形村	1.23	88	14.48	○		安代町農協
21	幸藤	幸花	福波	川井村	1.54	112	15.05	○	○	浄法寺町
22	良久	山久	清房	岩泉町	1.28	97	13.11	○	○	岩泉町農協
23	伊達紫	波宝	勝富	安代町	1.33	93	15.21	○		畜試保留
24	福花	幸花	杉富	川井村	1.41	103	14.43	○	○	畜試保留
26	朝花	波宝	富川	安代町	1.40	123	9.21			岩泉町農協
27	琴春	琴頼1019	波幸	岩泉町	1.31	96	14.18	○	○	川井村
28	幸秀	幸玉1742	琴頼1019	岩泉町	1.37	116	10.32	○		川井村
31	玉菊	善光	笹光	盛岡市	1.30	106	11.40	○		浄法寺町
間接検定予定牛の平均					1.37	99	14.75			
供用牛の平均					1.34	101	13.41			
同年度検定牛の平均					1.16	96	10.74			